

生産・経営への影響

1 生産資材価格の推移

平成20年7月の農業生産資材は、平成17年1月と比べて上昇している。特に重油価格は約2.41倍、重焼リン肥は約1.66倍、飼料用のとうもろこしは1.76倍と、光熱動力、肥料、飼料が高騰している。

平成17年を基準年(100)とした19年の農産物(総合)の価格の指数は97.6と減少している。一方、農業生産資材(総合)の価格の指数は、105.6と上昇しており、経営を圧迫している。

個別の生産資材の月別価格の推移

図I-1-1は農ビ・重油、図I-1-2は肥料、図I-1-3は飼料の過去3ヵ年の価格推移を示した(農作物価指数より)。平成17年1月と比べ、重油約2.41倍、農ビ1.18倍、高度化成約1.55倍、重焼リン肥約1.66倍へ上昇している。平成20年7月現在の重油価格は、121.5円/kgだと平成17年1月より71円高くなっている。また、飼料の配合飼料(肉用牛肥育用)1.45倍、とうもろこし1.76倍へ上昇している。

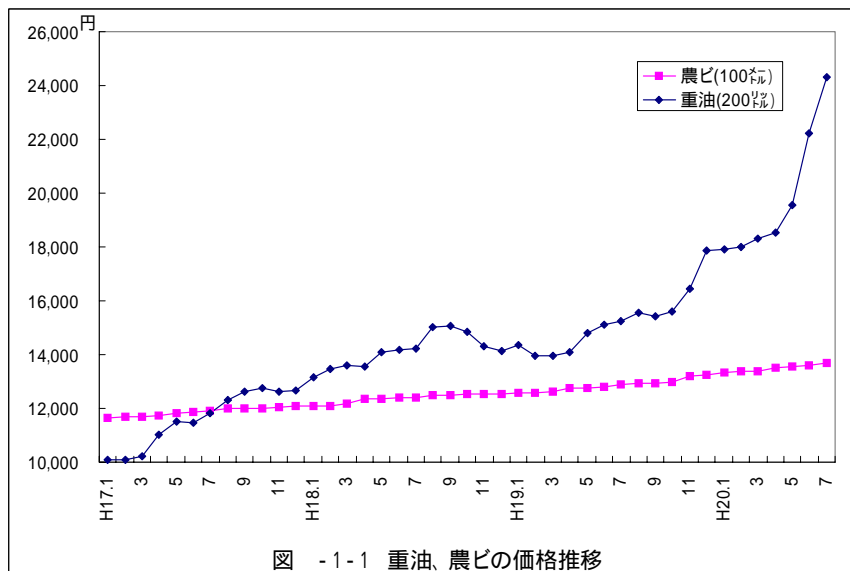


図 - 1-1 重油、農ビの価格推移

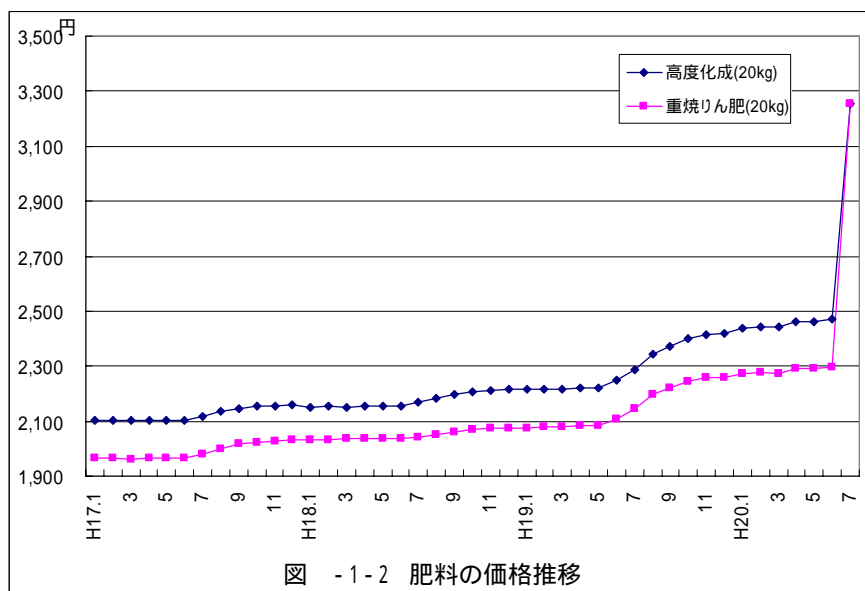
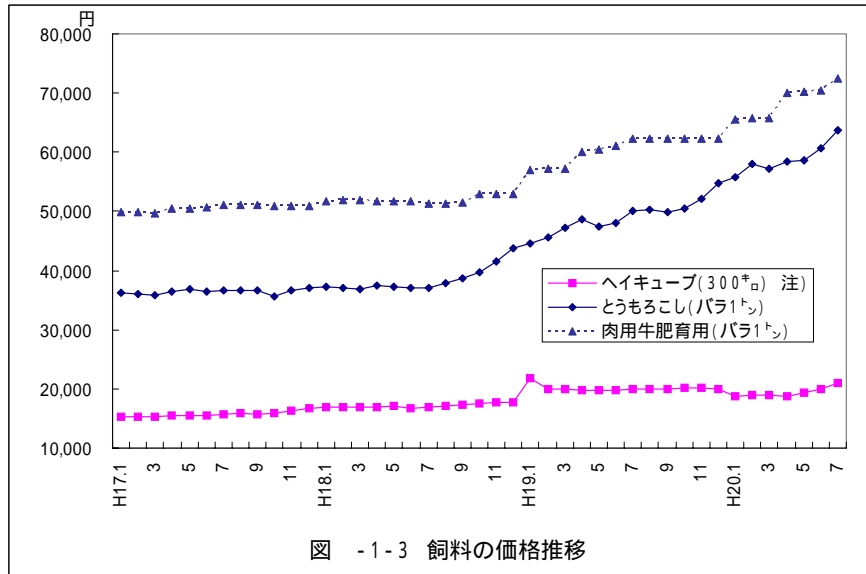


図 - 1-2 肥料の価格推移



注)「ヘイキューブ」は乳牛の飼料となる牧草を乾燥させたもの。

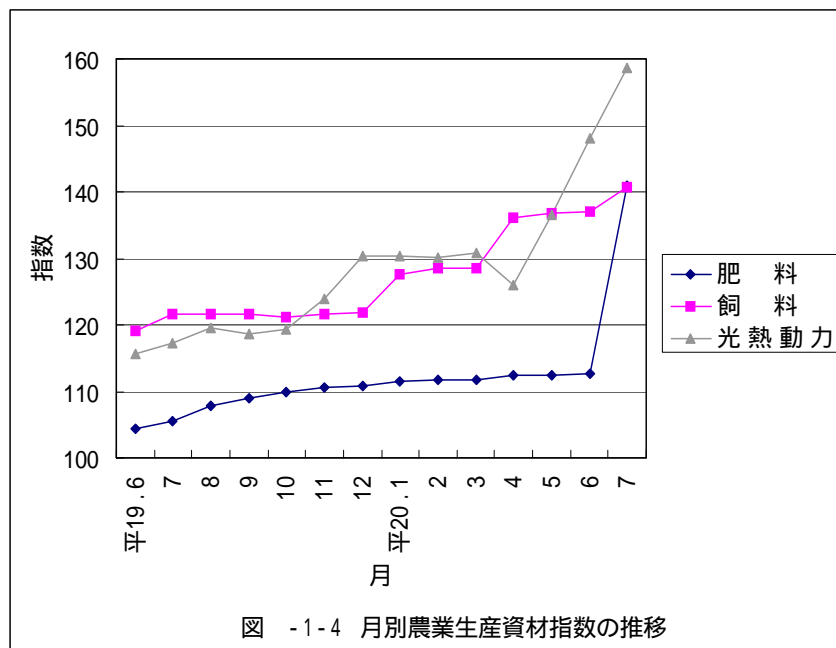
項目別生産資材の月別価格指数の推移 (図 I-1-4 農林統計より)

農業生産資材価格の過去1年間の推移の中では、光熱動力、飼料、肥料の上昇が高い。

飼料は断続的に、光熱動力は平成20年5月から急激に、肥料は平成20年7月の価格改正により大幅に上昇した。

平成17年を基準年(100)とした20年7月の各生産資材の指数は、肥料は141.0、飼料は140.6、光熱動力は158.6である。前年同月からの上昇率は、肥料は33.5%、飼料は15.6%、光熱動力は35.2%である。

光熱動力のうち最も上昇している重油は、20年7月の指数で204.9と、大幅な上昇となっている。



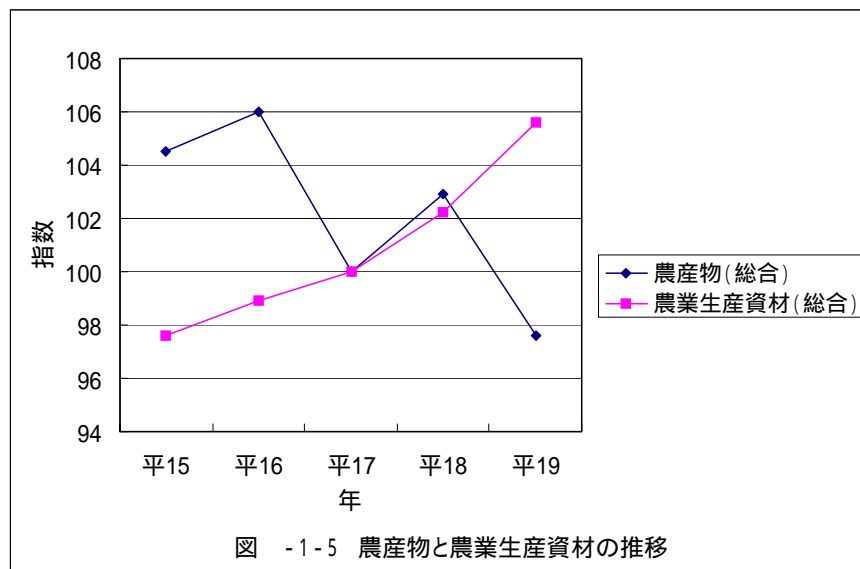
生産資材と農産物の年別価格指数の推移

平成17年を100とした19年の農産物（総合）は97.6であるのに対して、農業生産資材（総合）は105.6である。図I-1-5（農林統計より）に示すように、過去5年間では、農業生産資材価格は上昇傾向にあるが、農産物価格は下降傾向にある。

農産物価格の内訳でみると、19年の米は95.0、野菜は100.6、畜産は99.5である。

農業生産資材の内訳でみると、19年の肥料は106.6、飼料は118.5、動力光熱は116.5である。

農産物（総合）は、全体を100とした場合の内訳は、米は24.68、野菜は24.14、畜産物は20.75である。
農業生産資材（総合）は、全体を100とした場合の内訳は、農機具は18.41、飼料は15.12、賃借料及び料金は10.84である。なお、肥料は10.54、光熱動力は9.45である。



【参 考】

- ・農林水産省統計より「農家の所得や生産コスト、農業産出額など」

[\hhd. ##kkk" aUZZ" \[c" ^d#^#hc_Y\] #_ci \nei #bci Vi __U#\] bXY1 "\ha`](#)